

年月日	21	12	01	ページ	11	NO.	
-----	----	----	----	-----	----	-----	--

半導体超音波検査関連機器

東レエンジ、重量4分の1

東レエンジニアリングは30日、半導体検査装置などで使われている超音波送受信センサーの駆動装置「パルサー・レシーバー」を12月に本格販売すると発表しました。一般的な製品と比べて、体積は9分の1、重量は4分の1に小型化し、検査装置に組み込みやすくなりました。

入出力は全て前面パネルに配置することで、使い勝手も高めた。価格は150万円（消費税抜き）。20



24年度に100台の販売を目指す。東レエンジはこれまで

緻にコントロール。消費電力は一般的な製品と比べ6分の1に低減

半導体検査装置での用途が見込まれている東レエンジの「パルサーレシーバー」T301PR

で超音波送受信センサー「トランスデューサー」を手がけてきたが、同

装置の開発は初めて。計測機器における制御技術を活用。超音波信号の発信・受信のタイミング・頻度を精密にコントロール。消費電力は一般的な製品と比べ6分の1に低減した。

一般的にパルサーレシーバーは、超音波が発生する外付けモジュールを設置して使用する必要があったが、同社の製品はそれらを一体化。また、パルサーレシーバー自体のサイズも、高周波数領域では使用電力が大きいことから大型製品が中心だったが、小型化した。

センシング営業部の松宮敬ゼネラルマネージャーは「検査設備の省スペース化や検査機器本体への設置性向上のニーズが高まっている半導体などの用途を中心に販売する」と述べた。